

2021(令和3)年度の教育活動等に対する学校評価

2022 年 3 月 1 日現在

学校法人堀口学園

幼保連携型認定こども園

昭苑こども園

1. 教育・保育の方針と目標

～未知なる子どものあらゆる可能性の開花をめざして～

昭苑こども園は学校法人堀口学園の創設理念である「神を愛し、自然を愛し、人間を愛する」というキリスト教精神と、「自分が神に愛されるように、あなたもあなたの隣人を愛しなさい」と聖書に記された隣人愛の教えを継承しつつ、モンテッソーリ保育を取り入れ、幼保連携型認定こども園の教育保育要領に則り、乳幼児の達成課題を年齢別・発達段階別に編成した保育プランやカリキュラムを日々の教育・保育の中で実践していきます。

～こんな子どもを育てたい：心あそび、カラダよろこぶ昭苑こども園の子どもたち～

5つのH（Health, Hand, Head, Heart, Harmony）を大切に、歌って踊っていつも元気な子、何にでも興味をもつ一生懸命な子、人の気持ちがわかるやさしい子、個性豊かで楽しい子

2. 2021 年度の重点課題（事業計画）

- I 保育 ①認定こども園として質の高い教育保育について再確認する
②定員を満たす園児数を確保する
- II 人事 ③教職員の育成を図る
④教職員の定着を図る
- III 施設 ⑤教育保育の環境を充実させる
- IV 財務 ⑥財政基盤を強化する
- V その他 ⑦施設内の連携を強化し、各部署の充実を図る

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上：合格ライン)、D(50点以上)、E(50点未満：手つかず項目)の6段階とし、D以下の項目は次年度の課題として必ず繰り越すものとする。評価にあたっては教職員の個人的な解釈に左右されないように、園としてのルーブリック（評価の指針）を示し、それを参考に自己評価を実施する。

評価項目	具体的な取組		自己評価					学校関係者評価委員会	
			評価	評価のためのルーブリック（指針）			こども園としての反省と改善策	評価	学校関係者の所見とアドバイス
Ⅰ 保育	① 認定こども園として質の高い教育保育について再認識する	職員ハンドブックにより価値観の共有を図る	A	S	価値観の共有について特筆すべき点がある	2.7	＊職員ハンドブックのデータをキッズリーアプリを活用し全職員にメール配信。 ・ハンドブックをウェブで見られる環境にある。 ・会議等で読み合わせしている。 ★会議に参加していない職員との共有を考える。 ★定期的に読み合わせる機会を作ってはどうか。	A	・ノートの必要事項メモ。わずかな時間でも様子を伝えてもらっている。 ・昨年に比べて職員コミュニケーションスムーズ。 ・参加できていいない職員に別日程を設ける。
				A	価値観の共有がほぼ全教職員にされている	29.7			
				B	価値観の共有が約半数以上の教職員にされている	29.7			
				C	価値観の共有はリーダーの教職員にされている	18.9			
				D	価値観の共有は園としてできていない	18.9			
				E	園として取り組めていない	0			
		質の高い教育保育と、子どもとの関わり方のつながりについて再認識する	B	S	この取り組みについて特筆すべき点がある	2.6	・ハンドブックの内容で再認識できる環境にある。 ・幼児会、乳児会、連携会議など様々な会議を通して考えていくことをしている。 ★補助に入る職員とも共有できるようになるとよいと感じる。	B	・こどもへの接し方に余裕が出来てきたように思う ・共有して認識し対応出来てよい。 ・ハンドブックの活用に加え、 ①日々のかかわりを丁寧に行う ②一人一人の良さを認めていくようにする。
				A	ほぼ全教職員が再認識した	23.1			
				B	約半数以上の教職員が再認識した	35.9			
				C	リーダーの教職員は再認識した	15.4			
				D	再認識は園の職員に行き届いていない	15.4			
				E	園として取り組めていない	2.6			
	質の高い教育保育と、保護者対応のつながりについて再認識する	A	S	この取り組みについて特筆すべき点がある	0	・ハンドブックの中に保護者対応についてのキーワードが記載されているので確認し再認識できる環境にある。	A	・ハンドブックで共通した認識で対応できることはよい。 ・経験のある職員が子供や保護者に対し、真摯に対応する姿を見せていく。 ・働きやすい、相談しやすい職場にする。担任へのサポート必要。また、職員の頑張りを認めることが大切	
			A	ほぼ全教職員が再認識した	37.1				
			B	約半数以上の教職員が再認識した	31.4				
			C	リーダーの教職員は再認識した	17.1				
			D	再認識は園の職員に行き届いていない	11.4				
			E	園として取り組めていない	2.9				
	② 定員を満たす園児数を確認	0歳児の確保（9名）と1歳児の確保（6名）	A	S	0．1歳児、園全体共に定員を超過した	8.7	・0歳児は1月に2名入園11名、2月に1名入園で12名に予定。 ・1歳児は1月に1名入園18名になる予定。 ・2月には0.1歳児の確保が出来、定員を	A	・定員が満たせたことすばらしい ・地域の中心を担う園として少子化の中ではあるがこれからも尽力頂きたい。
				A	0・1歳児、定員を満たした	41.9			
				B	0・1歳児、定員の8割の確保はできた	19.3			
				C	0・1歳児、定員の5割の確保はできた	29.0			

	保する			D	0・1歳児、定員の半分を満たせなかった	0	満たせる予定。		
				E	園として取り組めていない	0			
		満3歳の確保（6名）	C	S	満3歳、園全体共に定員を超過した	0	・1月に1名入園し3名になり定員の半数は満たすことができた。 ★園内では2歳児ほし組へ満3歳児について積極的にPRし移籍できるようにする。 ★外部へのPR、アプローチをしていく ★こども子育てルームとの連携	C	・今後定員の確保は難しいと思う。 園の取り組み、教育をアピールしていくこと必要。 近隣（富里成田など）の待機児童の取り込み。 ・こども子育てルームとの連携ができるとうい。
				A	満3歳、定員を満たせた	11.8			
				B	満3歳、定員の8割の確保はできた	29.4			
				C	満3歳、定員の5割の確保はできた	52.9			
				D	満3歳、定員の半分を満たせなかった	5.9			
				E	園として取り組めていない	0			
		3歳児の確保（10名）	D	S	3歳児、園全体共に定員を超過した	6.5	・1月現在 定員40名のところ29名。 目標の10名の確保できなかった ★1号認定児の確保 ★他市町村への園児募集をしていく	D	・お試し入園のような形でアピールしてはどうか。
				A	3歳児、定員を満たした	12.9			
				B	3歳児、定員の8割の確保はできた	25.8			
				C	3歳児、定員の5割の確保はできた	16.1			
				D	3歳児、定員の半分を満たせなかった	38.7			
				E	園として取り組めていない	0			
Ⅱ. 人事	③教職員の育成を図る	社会人としての人間性を高める	B	S	園教職員の人間性向上で特筆すべきことがある	2.7	・新年度研修でのANA接遇研を受け、挨拶、話の聞き方、伝え方など基本的なことを見直す機会となった。 ・グッジョブカードの利用で同僚の良いところに気づき伝え合うことが出来た。 ・賞賛文化が広がった。	A	・職員の賞賛文化を大いに広げるよう期待します。 ・グッドジョブカードの取り組み続けて欲しい。 ・コロナ禍航空関係は学校にもボランティアで来てくれている。連携を図ることで色々な面でプラスになるのではないかと思う。
				A	新学研修を通して園教職員の人間性が非常に向上した	16.2			
				B	新学研修を通して園教職員の人間性が向上した	29.7			
				C	新学研修を通して園教職員の人間性が少し向上した	37.8			
				D	新学研修の内容では不十分だった	10.8			
				E	園として取り組めていない	2.7			
		AEDの使い方について研修する	A	S	AEDの研修で特筆すべきことがある	2.7	・設置時にキッズリーで全職員に動画配信をした上で園内連携会議にて救命救急士の方を講師に招き研修をさせて頂いた。 ・普段から気かけいざというときに確実にできるようにしていきたいと思う。 ★途中入職者への対応が抜けているのではないかと思う。	A	・いざというときに躊躇しないように今後定期的な研修が必要。 ・地域にAEDがあることを広められたらよいと思う。 ・AED以外にもアレルギー対応、職員連携、外部への連絡体制の明確化も必要。
				A	AEDの使い方を園職員がほぼ全員周知している	43.2			
				B	AEDの使い方を園職員の半数以上が周知している	16.2			
				C	AEDの使い方を園のリーダーが周知している	10.8			
				D	AEDの使い方の研修は実施したが不十分である	21.6			
				E	園として取り組めていない	5.4			
		新型コロナウイルス		S	消毒方法の研修後、特筆すべきことがある	5.4			

		ルス感染症対策のための園内衛生環境整備のための研修を受ける	A	A	感染予防の消毒方法についてほぼ全員が周知している	54.1	・ノロックスを利用して細やかな消毒が 出来ていると思う。 ・看護師が入りアドバイスありその都度 全体周知が出来ていると思う。 ・会議などで話し合いが出来ていると思 う。 ★パート職員の中には把握できていない 方がいる	A	・靴裏除菌マットの導入良いと思う。 ・設備も含めて充実している ・看護師の配置によりさらに安全対策 出来ている。	
			B	B	感染予防の消毒方法について教職員の半数以上が周知している	27.0				
			C	C	感染予防の消毒方法についてリーダーが周知している	0				
			D	D	感染予防の消毒方法について研修は実施したが不十分である	10.8				
			E	E	園として取り組めていない	2.7				
④ 教職員の定着を図る	休憩場所の創設と休憩の取り方を工夫する	B	S	S	休憩にかかる改善について特筆すべきことがある	0	・2号館1階に専用の休憩スペースがで きた ・休憩場所が設置され利用している方 を見かける。 ・取りやすくなった ★学年によっては取りにくいところがあ るように感じる。	B	・いろいろな意見が取り入れられる職 場環境があること素晴らしい。少しづ つ改善されているのを感じる。 ・園児から離れて休憩が取れるスペー スがあるのは良い。 ・実際にどのくらいの時間が確保でき ているのか、また、学年格差をなくす よう検討して頂きたい。	
			A	A	休憩場所は快適で、休憩の取り方も工夫された	14.3				
			B	B	休憩場所が創設され、十分ではないが工夫がされた	51.4				
			C	C	休憩場所が創設されたが、課題が多い	25.7				
			D	D	休憩場所の創設がなく、工夫も不十分	5.7				
			E	E	園として取り組めていない	2.9				
	シフト勤務の改善により働きやすさを確保する	B	S	S	シフト勤務の改善で特筆すべきことがある	2.9	・シフトの中にやるべきことが記載され ていてわかりやすい。 ・園バス添乗、バス待ち保育者、学年ごと に補助職員配置、歌唱指導など幼児組の補 助職員入り充実した	B	・シフト勤務の改善がなされた点とさ れていない点の割合を崩さないように することが必要。 ・意見の出しやすい職場とても重要。 ・複数の目で見られる環境があること 良い。補助職員は担任がやりやすいよ うに動く、サポートすることが重要。	
			A	A	改善策により、非常に働きやすくなった	17.6				
			B	B	改善策により、働きやすくなった	35.3				
			C	C	改善策により、やや働きやすくなった	23.5				
			D	D	改善策は講じているが効果が感じられない	14.7				
			E	E	園として取り組めていない	5.9				
	残業は月10時間（1日30分）程度にする。	B	S	S	残業にかかる改善で特筆すべきことがある	3.0	・乳児棟。幼児棟での格差が大きい。 ・部署によって違う。 ・正規職員は残っていること多いと思う。	B	・園として10時間と目安をもってい るのがよい。 ・部署によって差があるのは仕方がな いことかと感じる。 ・サービス残業と超過の区別が難し い。残業に対する取り組みが出来てい ない理由を明らかにし、再度取り組み を！ ・主幹保育教諭がずっとというイメージ あり。役職者こそ定時勤務必要（朝、夕 共に）	
			A	A	残業は計画的に月10時間（1日30分）程度以内になった	9.7				
			B	B	定時で帰る取り組み、超過勤務申請制度が定着した	18.2				
			C	C	サービス残業と超過勤務の区別がなされた	24.2				
			D	D	サービス残業を減らす取り組みがなされた	6.1				
			E	E	残業に対する取り組みが園としてできていない	36.4				
	有休消化率を50%にする（3カ		S	S	有休消化率の改善で特筆すべきことがある	3.3	・二法人合同働きやすさ検討委員会で 有休消化率を調査、現時点でほぼ50%以上 取得済。		・有休消化が出来ていること職員とし てはありがたいこと	
			A	A	有休消化率は70%以上になっている	20.0				

		年計画で 70%)	S	B	有休消化率は 6 0 % 以上になっている	30.0	・ ・主幹保育教諭のアドバイスあり、計画的に消化できている。 ・有給休暇の希望が出しやすくなった。	S	
				C	有休消化率は 5 0 % 以上になっている	30.0			
				D	有休消化率は 5 0 % 以下のままである。	13.3			
				E	園として取り組めていない	3.3			
		乳児棟の正職員の割合を 30% に上げる (5 カ年計画で 50%)	D	S	乳児正職員の構成の改善で特筆すべきことがある	0	★今年は変化なかった。(20%) ★週 3 0 時間以上勤務しているパート職員 5 名の正職員への移行検討 ★幼児担当職員の充実により乳児職員も正職化を進めたい	D	・労働条件の見直しで改善されるとよいと思うが現実には厳しいと思う。
				A	乳児棟正職員の割合が 5 0 % 以上である	3.1			
				B	乳児棟正職員の割合が 4 0 % 以上である	6.3			
				C	乳児棟正職員の割合が 3 0 % 以上である	15.6			
				D	乳児棟正職員の割合が 3 0 % 以下のままである。	65.6			
				E	園として取り組めていない	9.4			
Ⅲ 施設	⑤ 教育 保 育 の 環 境 を 充 実 さ せる	2 号館の物品教材を整理する (4 階、3 ～ 4 階の階段回り)	C	S	2 号館の整理で特筆すべきことがある	0	・ 2 号館 4 階の整理が計画的に取り組まれている。 ・ 2 0 2 5 年、創立 50 周年に向けて 2 号館の改修計画の立案が始まった	C	・子どもたちの怪我につながらないよう安全点検を月ごとに担当を決めていること良い。 ・見た目は重要、不要なものは処分進めて欲しい。 ・歴史の中で残したいもの・子どもたちに伝えたいものを選別してほしい。 ・長期の計画着実に進めて欲しい。 ・トイレ、水回り気になる。改善を望む。
				A	2 号館全体として整理された	12.9			
				B	2 号館の半分以上が整理された	29.0			
				C	2 号館の一部が整理された	35.5			
				D	2 号館の一部が整理されたが不十分	12.9			
				E	園として取り組めていない	9.7			
		施設内の老朽化している所の修繕を計画的に図る	B	S	修繕計画について特筆すべきことがある	2.9	・ 2 号館駐車場で入口の門扉改修 入口サッシ鍵改修 全館正門の施錠を改善するなど計画的に修繕が実施されている。	B	・計画的に行き届いていると思う。
				A	修繕 (計画) は全体的に行き届いている	14.7			
				B	修繕は部分的だが計画的に行き届いている	26.5			
				C	修繕は部分的だが危険箇所は取り除かれつつある	38.2			
				D	修繕は部分的で、計画も不十分である	17.6			
				E	園として取り組めていない	0			
		購入品だけでなく手作りおもちゃ、手作り教材等で園の教材の充	C	S	教材充実について特筆すべきことがある	2.9	・ 手作りの教材は充実してある。 ・ 一部の職員が自発的に取り組みアイデアを出し取り組んでいる。 ★気持ちはあるが時間に余裕がない。	C	・良い取り組みだと思うが。職員の負担にならないよう保護者への参加を促してもいいと思う。
				A	教材は全体的にとっても充実している	2.9			
				B	教材は全体的に充実している	20.6			
				C	教材は部分的に充実している	26.5			

		実を図る		D	取り組みが不十分で教材は充実していない	47.1	勤務時間内に作れるよう時間のやりくりが課題。		
				E	園として取り組めていない	0			
IV 財務	⑥財政 基盤を 強化す る	経費の圧縮を図 る	B	S	経費の圧縮について特筆すべきことがある	3.0	・3号館コピー機のリース終了 会計パソコンリース1台化など保育園 時代の経費を圧縮している。	B	・ペーパーレスできるところある。 園だよりなどもデータ配信だと出先 でも見られてよい。 →年度初めに必要な方確認しその方 のみ紙でもよいのではと思う。
				A	経費の圧縮は全体的によく図られている	21.2			
				B	経費の圧縮は部分的によく図られている	36.4			
				C	経費の圧縮は一部ではあるが図られている	30.3			
				D	経費の圧縮は一部のみで不十分	6.1			
				E	園として取り組めていない	3.0			
		処遇改善加算の 支払い方法の改 善を図る	A	S	支払い方法改善で特筆すべきことがある	6.7	・処遇改善Ⅱの手当てが毎月給与とともに 支給しいてもらっている。	A	・これからも職員のためをお願いしたい。
				A	支払い方法が改善されとても満足している	33.3			
				B	支払い方法が改善されやや満足している	33.3			
				C	支払い方法が改善された	23.3			
				D	支払い方法は改善されたが不十分	3.4			
				E	園として取り組めていない	0			
V その他	⑦施設 内の連 携を強 化し、 各部署 の充実 を図る	昭苑こども園の 総合力を生かし、 しょうえんこど もこそだてルー ムの地域子育て 支援をさらに充 実させる	S	S	利用者増加で特筆すべきことがある	4.3	・コロナ禍の4.5月に比べて9.10月は以 上の利用があった。 ・コロナ禍利用者に満足していただける ような工夫を心がけている。 ★利用者の人数だけでなく、昭苑こども園 の総合力を生かした子育て支援になるよ うにしていきたい	S	・酒々井の子育てには欠かせない場所 ・親がリラックスできる空間。多くの 方に利用頂けるようスペースの拡大が 出来たらよいと思う。
				A	利用者が30%以上増えた	21.7			
				B	利用者が20%以上増えた	34.8			
				C	利用者が10%以上増えた	26.1			
				D	取り組みが不十分で利用者が増えていない	13.0			
				E	園として取り組めていない	0			
		今後の学童保育 のあり方を模索 し、昭苑学童クラ ブの児童数を定 員まで増やす	D	S	在籍児童数増加で特筆すべきことがある	5.2	・現時点（12月）在籍児童43名 ・2022（令和4）年度の新1年生23名入 所受付済。在籍児童は約60名になる予 定。 ★1～3年生、各学年20名 4年生以上で20名計80名	D	・コロナ禍の影響は大きかったと思 う。 ・公立との差別化必要かと思う。費用 高くても生活の場以外の目的を持って もいいのではないかと思う。 ・教室のイメージが古い。改修計画で 新しくすると定員増加につながるの ではないかと思う。
				A	在籍児童数が80名を満した	10.5			
				B	在籍児童数が70名以上になった	10.5			
				C	在籍児童数が60名以上になった	42.1			
				D	取り組みが不十分で在籍児童が50名程度	26.3			
				E	園として取り組めていない	5.2			

●自己評価取りまとめ担当者：

園 長 堀口義也

主幹保育教諭（幼児） 木川尚彦

主幹保育教諭（乳児） 喜多山文子

●学校関係者評価委員：

幼児組保護者代表 山崎恵美子（2021 年度連絡委員会会長）

乳児組保護者代表 早川久代（2021 年度連絡委員）

学校法人堀口学園評議員（卒園児）日笠智一

地域住民 斎藤尚子（東酒々井 1・3 丁目自治会会長）

地域住民 和田菜穂子（酒々井町民生委員）

青少年健全育成関係団体代表 小早稲美穂（卒園児、元連絡委員会会長）

接続校の教職員 戸谷友紀（小学校教諭）

その他の学校関係者 朝日未夏（小学校教諭）、

松田裕児（成田市社会福祉協議会）

岸部徳子（社会福祉法人愛の園福祉会 緑が丘こひつじ保育園 園長）